

成新聞

第2519号 (毎週日曜日発行、ただし5週目の日曜日を除く)

発行所
 成新聞社
 発行人 岡部守恭
 〒166-8535 東京都杉並区和田2丁目7番1号
 電話 直通 03(5385)2321
 FAX 03(5385)2332
 定価1部21円(税込)

人のぬくもり、心のぬくもり

妙華

微煙香

暮らしにやすらぎの香りを

香舖 誠寿堂

(23年) 5月15日 (日曜日)

成新聞

東日本大震災

本会一食平和基金から拠出

会員の祈り被災地へ

現地地援助活動を行う NGO 4 団体に計1400万円

立正佼成会一食平和基金運営委員会(委員長 沼田雄司教務局長)はこのほど、東日本大震災の被災地で援助活動を実施している四つのNGO(非政府機関)に、合計1400万円を拠出することを発表した。

これは同震災の被害に對する緊急支援(総額5億円)の一環で、本会会員の「一食を捧げる運動」によって寄せられた浄財が基となっている。甚大な被害を受けた岩手、宮城、福島各県をはじめとする被災した各自治体へ寄託した見舞金と同様、被災者の支援に役立てられる。

拠出先は、被災地で活動を行っている特定非営利活動法人「ジェン」、国際協力NGOセンター

(JANIC)、難民支援協会(JAR)、ピースボートの4団体。ジェンとJANICにそれぞれ500万円を、JARとピースボートにそれぞれ200万円を寄託する。

なお、同運営委では被災地の復旧、復興状況や被災者のニーズなどを踏まえ、さらなる支援を随時、検討していく予定だ。このほど発表された4団体の現時点での活動内容は、次の通り。

【ジェン】

現在、宮城県石巻市内に拠点を設け、国内外から集まったボランティアと共に、炊き出し、汚泥やがれきの除去作業など直接的な被災者支援を展開している。

【JANIC】

被災地で多様なNGO

が行う支援活動のサポートやNGO間の連絡、調整などを担っている。援助の重複や格差を防ぐほか、被災地やNGOにつ

いての情報収集・発信に加え、自治体との交渉などに取り組んでいる。

【JAR】

情報不足などを理由に



浸水により使用できなくなった家具などを運び出すボランティアたち。被災地域が広範なため、長期的な支援が求められている (写真はジェンの活動=4月17日、石巻市内)

災害弱者に陥りがちな難民および外国人を対象に援助活動を続けている。同団体のホームページやチラシなどを通じて、ビルマ語やトルコ語など、在日難民の母語を中心とした9カ国語での情報を発信。食糧や日用品等を配付し、生活のサポートも

【ピースボート】

石巻市内を中心に炊き出し、汚泥やがれきの除去作業などを展開している。また、専任スタッフはボランティア希望者として市内の各団体とのマッチング、活動のコーディネートなども担っている。